

協働ニュース

創刊号

「協働」という言葉は、使われ始めてから20年以上が経っています。だけど、「協働」って何だろう...
なんか難しそうだなあ...他の人と一緒にやるのって面倒くさそうだなあ...とっていませんか?

相模原市が策定している第2次市民協働推進基本計画では「協働」を以下のように説明しています。

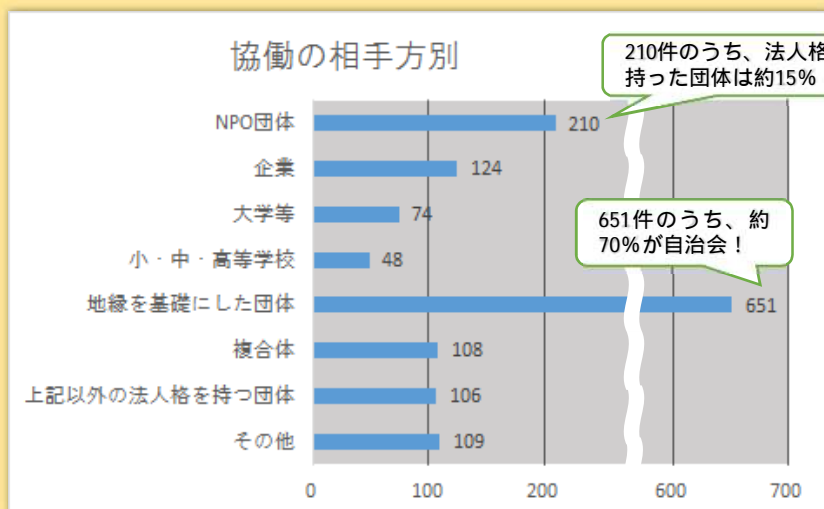
多様な主体が、目的を共有してお互いの役割や責任を理解し、その特性や強みを生かしながら、
対等の立場で協力して、地域社会の課題を解決するなど、皆が暮らしやすいまちを実現するた
めに、共に考え、活動すること

分かるような、分からないような...なかなか説明文だけでは分かりにくいと思います。

そこで!相模原市では、住みよいまちづくりを進めるため、市民の皆さまや市職員が「協働」について
理解を深め、一緒に何かやってみようという気持ちにつながるように、協働ニュースを発行することに
しました。このニュースでは、市で行われている協働の事例や協働を進めていくための取組などを紹介して
いきます!



市はどんな団体と協働してる??



左のグラフは、市民協働推進課が市役所内の各課に令和元年度に協働で実施した事業を調査した結果を「協働の相手方別」にまとめたものです。

一番数が多い「地縁を基礎にした団体」は自治会や老人クラブなどのことで、次に数が多い「NPO団体」は営利を目的としない団体で特定非営利活動法人(NPO法人)やボランティア団体などのことです。

協働の相手方の約60%はこの二つの分類に当てはまります。

グラフからは分からないことですが、「**地縁を基礎にした団体**」のうち、約70%が「自治会」でした。この調査を通じて、地域のために自治会が担っている役割が大きいことを改めて感じました。また、「NPO団体」のうち、約15%がNPO法人でした。

この調査はこれからも毎年実施し、市のHPに結果を載せていきます。他にもどんな形態で協働しているのか、どんな分野で協働しているのかも調べていきますので、興味のある方は市のHPをご覧ください!

この中に新たな協働のヒントがあるかもしれません。

令和元年度調査結果はこちらから!





協働の事例紹介

～協働でこんなことやってます～

私たちの生活を取り巻く環境においては、様々なところで新型コロナウイルス感染症の影響が生じています。でも、こんな時だからこそ、協働で新型コロナウイルスへの対応に取り組んでいるものもあります。

今回は、市役所内の各課に新型コロナウイルス感染症の拡大防止や各種支援に関連して協働で取り組んだものがあるか、NPO法人と協働で取り組んだものがあるかを聞いてみました。その中から、いくつかの事業を紹介します。

外出自粛で運動不足？！

地域に身近な公園や緑地の保全にも協働で取り組んでいます

身近な公園への注意喚起看板の設置

4月に緊急事態宣言が発令され、外出自粛要請がなされている中でも公園は閉鎖しませんでした。それは、屋外での運動や散歩などは健康の維持のために必要なものだからです。

そうは言っても、今まで通りに公園を利用しては、人が密になる可能性があるため、地域に身近な公園に新型コロナウイルス感染症拡大防止の注意喚起をする看板を相模原造園協同組合との協働で設置しました。



組合と市は災害時における応援に関する協定を締結するなど元々関わりがありましたが、コロナ禍において、組合から「何か出来ることが無いか」と話があったことが今回の看板設置のきっかけでした。市が看板の図案を作成し、組合が看板の製作及び市内約500か所への設置を行いました。

地域の緑地の保全のために、NPOがこんなところでも活躍しています！

森づくりパートナーシップ推進事業

南区にある市民緑地やふれあいの森など、市が保有・管理している樹林地の森づくり活動を行う団体とパートナーシップ協定を締結し、間伐等の維持保全や希少動植物の保全・保護活動を実施しています。

【連携相手】

- ・NPO法人境川の斜面緑地を守る会
- ・NPO法人相模原こもれび
- ・東林ふれあいの森を愛する会
- ・大野台みどりを守る会
- ・東若会



X 水みどり環境課

市民協働によるモニタリング調査

生物多様性の保全を推進するため、市内の特定のエリアにおける生物の生息・生育状況の観察・記録などを実施しています。

【連携相手】

- ・NPO法人境川の斜面緑地を守る会
- ・NPO法人相模原こもれび
- ・木もれび探鳥会
- ・東林ふれあいの森を愛する会
- ・光明学園相模原高等学校
- ・さがみはらアザミの会
- ・田口正男氏
- ・田淵俊人氏



X 水みどり環境課

休校中の子どもたちのために

ラジオ de 朝の会

株式会社エフエムさがみ
×
教育センター

休校期間中の4月13日(月)から5月29日(金)までの平日の朝に、子どもたちに向けて、各学校からの応援メッセージや、自宅でできるストレッチ体操の紹介などをラジオで放送しました。市が放送内容の企画や各学校への周知を、エフエムさがみが放送内容への助言をしながら取り組みました。

休校中も自宅で過ごしている子どもたちが学校との繋がりを感じることができ、毎日同じ時間に放送をすることで規則正しい生活を促すことができました。

休校期間中に学習支援動画をJ:COMで放送しました。「さが見はランタイム」という名前は「相模原市教育委員会作成の動画を見て、楽しく学んでほしい」という願いが込められており、「ラン」には「Learn(学ぶ)」と「ランラン(楽しく)」という意味があります。

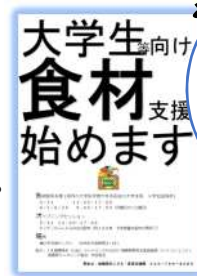
株式会社ジュピターテレコムから声を掛けられたことがきっかけで事業が始まり、5月の平日に15日間放送をしました。

相模原市家庭学習支援
「さが見はラン♪タイム」

株式会社ジュピターテレコム
×
教育センター

相模原市には大学生もたくさんいます

相模原市内には7大学のキャンパスがあります。新型コロナウイルスの影響で、アルバイト先が休業するなど、大学生も大変でした。そんな若者を支援するため、JA相模原や市内農業者、フードバンク等と協力し、大学生等に食材などを配布しました。



JA相模原
さがみはらケーターリング協会
公益社団法人フードバンクかながわ
さがみはら香福豚
さがみはら野菜生産倶楽部
フードコミュニティ 他
×
こども・若者支援課



事業を始めた5月31日から6月末までの間に合計約8トンの食材を延べ約3,000人に配布し、7月以降も「さがみはら大学生等未来応援事業」として続けています。事業の実施にあたって食材の提供を呼び掛けたところ、団体だけでなく、個人の方からも食材を提供していただきました。

ご協力いただいた団体や市民の皆様へ感謝申し上げます。

さがみはら子育てきずなメール

妊娠中の人や育児中の人、安心して出産や子育てができるように、おなかの赤ちゃんや産後のお子さんの成長に応じたタイムリーな情報をお届けしています。

この事業は市民協働推進課で所管している協働事業提案制度から始まった事業です！

【連携相手】

- ・NPO法人きずなメール・プロジェクト
- ・相模原商事株式会社

×
こども家庭課

子育て情報を発信する事業もNPOと協働で実施！

11月からはLINEでの配信も開始！



毎日届くお腹の赤ちゃんの状況やアドバイスは心の安になりました。

友達にもたくさん薦めました！毎日届くメールがとても心強くて助かりました。

夫と「にういっちゃんだね」と子どもの状態を話し合う機会も増えました。

子どもの様子で気になっていたことがタイムリーに送られてきて喜ぶのだと安心しました。

第2次市民協働推進基本計画がスタート！



協働に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、令和2年度から令和9年度までを期間とする「第2次市民協働推進基本計画」を策定しました。この計画では、**情報の発信とともに協働の担い手の輩出を重要課題**と捉え、「**活動に参加する者**」及び「**協働による活動をけん引する者**」の増加につながる取組を積極的に進めます！

【目標（目指す姿）】

「一人ひとりが地域の課題を自分事として考え、活動し、協力して取り組むことができる社会」

今回の計画で新規の取組に位置付けたものを紹介！

連携した活動を促進するための情報の収集・発信

- ・多様な主体が連携した活動の情報を収集し、「（仮称）協働ニュース」としてまとめて発信
- ・特徴的な協働の取組を表彰する制度の創設を検討

この「協働ニュース」も「連携した活動を促進するため情報の収集・発信」の一つとして始めたものです。

市民のスキルを活かす仕組みづくりの検討

- ・市民が仕事で培った経験やスキルを地域活動・市民活動団体等の運営に生かすための仕組みづくりを検討

新たな協働が生まれる場・仕組み等の検討

- ・活動していない人や興味のない人の参加を促すために、誰でも自由に集まれる場等（フリースポット）の創出を検討

協働に関する取組を推進するための意識の向上

- ・市役所内の各課に協働の取組の情報収集等を行う協働推進担当職員を配置

自治会運営への支援の在り方等の検討

- ・地域活動の中心的な役割を担う自治会の活動を振り返り、中長期的な視点で支援の在り方などを検討

SDGsの達成にも繋がる？！

17 パートナリシップで目標を達成しよう



「協働」を進めることは、SDGsで掲げる1から17までの全てに関連しますが、特に目指すゴールは「17 パートナリシップで目標を達成しよう」です。パートナーシップを活性化し、協働を推進することで「1から16までのゴール」を達成することにもつながります。



計画の詳細はこちらから！



あなたの寄附が活動の力に！

協働の事例紹介にも掲載していますが、地域の課題解決のために、多くのNPO法人が活動をしています。実際に活動に参加するのは難しくても、寄附で活動を応援することもできます。市が条例で指定しているNPO法人に寄附をすると、個人市民税の控除を受けることもできますので、ご協力ください。

寄附控除の対象となる法人はこちらから！

編集後記

最後までお読みいただきありがとうございます。今回が創刊号となる協働ニュースですが、これから年に2回は発行していく予定です。

皆さんが地域のために行っている活動も、実は協働の取組かもしれません。そんなことを考えてみるのが協働のきっかけになり、関心のある人が少しずつ増えていけば、目指す姿に近づくことができると思っています。これを読んで、少しでも「協働」に対する理解が深まれば幸いです。